

令和5年度全国木材資源リサイクル協会連合会

第1回理事会 議事録

日 時 : 令和5年4月28日(金) 10:00~11:30

場 所 : リモート会議 (ホスト: 全国木材資源リサイクル協会連合会事務所: 東京都中央区日本橋小伝馬町13-5 鏡ビル6階)

総 役 員 : 理事 13名、監事 2名

出 席 : 理事 9名 藤枝 慎治、鈴木 隆、山口 昭彦、片岡 重治、上田 恭久、
中野 光、粕谷 毅、石田 謙治、原 信男

監事 2名 矢吹 賢二、田中 一正

書面表決 : 理事 4名 櫻井 慶、鷹野賢次郎、船越 登、小原 隆二

オブザーバー出席 : 北日本協会事務局・高橋 秀孝、関東協会事務局・渡辺靖子、東海協会事務局・安部 薫樹

報道関係 日報ビジネス・徳永 杉太

連合会事務局 石出 信二事務局長、小川真帆子

議 事

第1号議案 令和4年度事業報告

第2号議案 令和4年度決算

第3号議案 令和5年度事業計画

第4号議案 令和5年度当初予算

第5号議案 役員の改選

報告事項

木材資源リサイクル調査及び広報活動推進委員会活動報告

令和5年度通常総会

国への要望

木質バイオマス燃料の品質規格案

カーボンニュートラルWG報告

議 事 内 容

司会 専務理事 原 信男

1 理事会の成立

開会にあたり事務局から、理事13名の内、9名が出席していること、欠席理事4名については議事について事前に書面表決をいただいていることにより理事会が成立し

ている旨の報告があった。

2 挨拶 藤枝 慎治 理事長

来月、コロナが5類に移行することとなり対面による会議も戻りつつあるが、リモートという便利な会議方法が定着してきた。本日の理事会はリモートの開催となる。令和5年度の通常総会に向けた理事会承認議案の審議であり、それぞれ慎重審議をお願いしたい。

3 議長選任

定款に則り、藤枝理事長が議長を務めることとした。

4 議事録署名人の選任

事務局から指名することについて了解を得て、北日本協会・中野理事、東海協会・石田理事の2名を指名した。

5 議事 議長 藤枝 慎治 理事長

議長が、第1号議案、第2号議案はそれぞれ関連があり、事務局からまとめて説明することを求めた。

第1号議案 「令和4年度事業報告」 (原専務理事)

事務局から、事業の成果の主要な事項について、建廃のサーマル利用のCO2削減効果を明らかにするためWGによる検討を進めたこと、4月27日に新しい事務所に移転したこと、UTM導入によりネットワークセキュリティーを強化したことなどの説明があった。

定款の事業に関しては、次の説明があった。

1の普及啓発事業は、子供向けのリーフレット「木のリサイクルのおはなし」を増刷しエコプロ2022で活用した。

2のイベント、講演等の開催事業は、新型コロナウイルスの関係から多くの催しが開催されない中、エコプロ2022に出展した。

3の調査・研究事業は、リモートによる委員会の開催、国への要望、木質バイオマス需給調査など各種調査の活用、FIT制度への対応等のほか、木質バイオマスのサーマル利用に関する欧州の動きを踏まえてカーボンニュートラルWGによる建廃のサーマル利用のCO2削減効果の検討を進めた。また、木質資源安定供給検討会は参加者を絞らず開催した。

4の情報提供事業は、国や自治体との調整を進めた。

5の援助に関する事業は、地域協会との連携を図った。また、国に関係した委員会や検討会に委員として参加したほか、コンサルのヒヤリングにも対応した。

第2号議案 「令和4年度決算」 (原専務理事)

続いて、活動計算書、参考資料などに基づき事務局から次の説明があった。

経常収益は 9,208,438 円。会費収入は 5,197,000 円で微減。受取寄付金は 3,620,000 円で目標の 3,600,000 円を達成。事業収益等は前年並み。前年比較で計 32,750 円の増。

経常費用は 9,410,501 円。地代家賃は移転費用や家賃の増額があったが、前年度に新事務所の初期費用があったために 99,896 円の減、新規でカーボンニュートラルWGの業務委託費 2,035,000 円の増、通信費は UTM や ZOOM 導入により 211,183 円の増など。前年比較で計 2,140,093 円の増。

結果、当期経常増減額は 202,063 円の減。

以上の説明について、矢吹監事から、適正なものと認めたとの監査報告があった。

第 1 号議案、第 2 号議案について、特に意見なく了承されたので、総会に上程することとされた。

議長が、第 3 号議案、第 4 号議案はそれぞれ関連があり、事務局からまとめて説明することを求めた。

第 3 号議案 「令和 5 年度事業計画」

(原専務理事)

事業計画の概要について、令和 5 年度は、各方面でコロナ前に社会経済活動に戻る動きもあるが、物流業界における 2024 年問題など多くの課題がある。関係機関と連携を強化しつつ事業に取り組んでいく。

(活動方針及び事業計画)

1. 活動方針及び事業計画については例年通りである。
2. 普及啓発事業はホームページの活用など。イベント、講演等の開催事業は効果あるイベントへの出展など。調査・研究事業は国への要望、各種調査の活用、先進地域視察、FIT制度の対応、物流業界の 2024 年問題の対応、木質資源安定供給検討会など。情報提供事業はカーボンニュートラルWG報告書の活用など。援助事業は各地域協会との連携など。

第 4 号議案 「令和 5 年度当初予算」

(原専務理事)

続いて、予算について資料に基づき事務局から次の説明があった。

経常収益は 9,265,000 円。会費は会員及び取扱量の増により増、寄付金は例年同様の目標金額 3,600,000 円の設定など、前年度予算に比べて 18,000 円の微増。なお、会費は会員数と取扱量で算出するが、令和 5 年度の会費は資料の通り確定していること。

経常費用は 9,103,000 円。地代家賃は通常に戻り 1,046,000 円と 282,000 円の減、カーボンニュートラルWGの業務委託費 2,035,000 円の減など。各費目とも精査して計上し、計 9,103,000 円。前年度予算と比較して 2,370,000 円の大幅減。

これにより、正味財産増減額は 162,000 円の増となること。

第 3 号議案、第 4 号議案について、特に意見なく了承されたので、総会に上程するこ

ととされた。

第5号議案 「役員の変更」

(原専務理事)

議長が、第5号議案について事務局から説明することを求めた。

資料に基づき事務局から説明があった。

片岡重治氏が任期満了により退任することに伴い、岡崎博紀氏を後任とする。それ以外の役員は留任とする。

本議案について、特に意見なく了承されたので、総会に上程することとされた。

6 報告事項

(1) 木材資源リサイクル調査及び広報活動推進委員会活動報告 (原専務理事)

事務局から、資料に基づき令和4年度の活動について次の報告があった。

第1回委員会を令和5年3月23日に、リモートにより開催した。令和5年度の理事会提出議案などを中心に意見交換した。また、木質バイオマス燃料の品質規格案の内容などについて報告があった。

(2) 令和5年度通常総会の概要

令和5年5月26日に予定している総会について、事務局から、説明があった。

タワーホール船堀で、対面で開催する予定である。総会終了後に、講演会、懇親会を予定している。

これに関連して、終了後の懇親会における挨拶の役割について決めた。

(3) 国への要望について

国への要望について、令和4年度の要望内容と木質資源安定供給検討会での国の回答を基に、事務局から次の説明があった。

令和5年度は、前年度から継続20、新規2、変更3、削除5の25項目の要望となる。国からの厳しい回答の要望もあるが、地域協会でも意見交換して要望項目を連絡いただきたいとの要請があった。

(4) 木質バイオマス燃料の品質規格案

(一社)木質バイオマスエネルギー協会がNEDOの委託を受けて策定したバイオマス燃料の品質規格案について報告があった。

これに関して、理事長から次のコメントがあった。

NEDOの予算を使って、国の方針として品質規格をつくりたいというものである。欧州からの要請もあり、国としてもやらざるを得ないというストーリーであり、仕方ないということをおわかっていただければと思う。品質規格はユーザーが求めているものでなければ意味がない。品質も個別の契約で定めており、これに大きく逸脱しなければい

いというイメージである。しかし、すべての契約がこれに沿っていなければだめということであれば、連合会としても然るべき対応をしていかなければならない。

(5) カーボンニュートラル WG 報告

令和 4 年度の新規事業であるカーボンニュートラル WG による報告案について説明があった。

以上をもって理事会は終了し、この議事録通り相違ないとして、議長及び議事録署名人において記名捺印する。

閉会 11 : 30

令和 5 年 5 月 8 日

議 長 理事長 藤枝 慎治 ⑩

議事録署名人 理 事 中野 光 ⑩

議事録署名人 理 事 石田 謙治 ⑩

議事録作成人 専務理事 原 信男 ⑩